

除夜の鐘

平成24年12月第5週放送

いよいよ明日は^{おおみそか}大晦日です。大晦日の夜、昔から行われている行事といえば、そう、「除夜の鐘^{じよや かね}」です。皆様の中でも大晦日の夜に鐘を撞いたことがあるという方がいらっしゃるでしょう。

除夜の鐘という行事がいつごろから始まったのかは定かではありませんが、大晦日の夜半、お寺の鐘を108回撞くことで、108ある^{ほんのう}煩惱を取り除くことができるといわれています。

では、この「煩惱」とはなんでしょう。

「煩惱」は、仏教の教えの中でも大変重要な言葉のひとつです。「煩^{わすら}う」と「惱^{なや}む」と書いて「^{むさぼ}ぼんのう」と読み、^{いか}貪りや^{おろ}怒り、^{おろ}愚かさなど、私たちの^{こころ}心を煩^{わすら}わせ^{なや}悩ませるものことです。このような困ったものが108もあるということです。

この煩惱は一体どこにあるのでしょうか。

それは、私たち一人一人の心の中にあるのです。私たちは、この煩惱のために煩い、悩み多き日々を過ごしているのです。まず、このことに気付かなければなりません。そしてこの煩惱は、他でもない私たち自身の心が生み出しているのです。

私たちは誰でも、心^{おだ}穏やかに生きたい、しあわせになりたいと願ってやみません。しかし、そのように願いながらも実際は、^{むさぼ}貪りの心や怒りの心などの108の煩惱を生み出し、^{みすか}自ら煩い苦しんでいるのです。

お釈迦さまが説く心^{へいあん}の平安やしあわせとは、心を^{わすら}煩わせ悩ませる煩惱がより少ないことが、心の平安であり、しあわせなのです。だからこそ、除夜の鐘を撞くことで、この煩惱を取り除くことを願うのです。

お釈迦さまは、私たちと同じように、いや私たち以上に煩惱の取り除かれることを願い、修行により^{さと}さとりを得ることができました。つまり、さとりこそが煩惱を取り除いてくれ、さとりこそが心の平安であり、しあわせなのです。

自らの煩惱を知り、お釈迦さまのさとりを実践していくことによって、私たちの心に平安がおとずれ、しあわせになることができるのです。

除夜の鐘の習慣を始めた人は、いつの時代のどんな人なのでしょう。仏教を深く

信仰し、お釈迦さまの教えをととてもよく理解した人であったことは間違いありません。

一年の最後の日の夜半、鐘を撞くことで煩惱を取り除き、すぐそこにきている新しい年こそは、心穏やかな、しあわせな一年になるよう願ったのですから。

— 終 —